

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成27年度自己評価表

評価基準

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

1. 教育理念・目標

評価項目	H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校パンフレットにて周知している。 ・Webサイトにて公表。入学および保護者には入学ガイダンスにて周知している。 ・在校生・教職員には学生手帳を配布している。	・特になし
・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示している。 ・カリキュラムは、臨床実習施設にも配布。 ・シラバスはWebサイト「本校のHP」から時間割と共に閲覧可能。	・特になし

2. 学校運営

評価項目	H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的開催されているか。	4	・理事会、岩崎学園管理職の会議、本校教務部会議・学科会議・各業務会議・朝礼を開催。	・特になし
・事業計画が定められているか。	4	・年度ごとに定めている。	・特になし
・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・有効かつ妥当に運営できている。	・特になし
・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。	・特になし
・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・月次で更新している。	・特になし
・業務分掌は適切か。	3	・年度ごとに各業務係(図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD)を決定し、遂行している。	・新学校種創設に合わせた移行準備プロジェクトチームを設け、準備を進める。
・人事考課は制度化されているか。	4	・夏冬賞与時、年度末実施。	・特になし
・出勤が適切に管理されているか。	4	・タイムカードまたは出勤簿、届出を月次管理。	・特になし
・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載。	・特になし
・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・年1回実施(平成28年度は実施済)。	・特になし
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	・学籍管理、成績管理、証明書発行、学生募集等システム化。学生に配布するシラバス・教材等はネットワーク上サーバにてアクセス可能にしている。	・特になし

3. 教育活動

評価項目	H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	3	・開講前に各教室にシラバスの冊子を配置し、学生ネットワークに時間割と共に開示した。 ・配置時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。	・専門大学化の状況も見据えて、ネットワーク上での公開について検討する。
・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PT123・OT120単位(指定規則93単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。	・特になし
・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学時には入学オリエンテーション時に配布し、説明を行う。	・特になし
・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	・学生募集イベント「体験入学」にて入学前の高校生に模擬授業を展開し、学校を知ってもらうと同時に高校生の現状を把握している。 ・入学試験では受験生全員に個別面接を課しており、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員3名が県立高校3校(南陵・瀬谷・二俣川看護福祉高等学校)にて評議委員を務め情報収集している。	・特になし
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会にて、情報を収集している。 ・就職指導部との連携により病院・施設等の採用ニーズ「求められる人材像・具体的な技術・知識」を聴取している。 ・臨床実習における症例報告会では他職種との意見交換を実施しており、その状況を臨床実習訪問時に情報収集している。 ・関連分野のプロである多数の非常勤講師と意見交換を実施している。 ・臨床実習訪問時に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。 ・岩崎学園から平成26年度卒業生における職場に於けるアンケート調査を卒業生とその上司に対して実施した。また、その結果についてレビュー及びヒヤリングしたものを教育課程編成委員会での議題に挙げた。	・特になし
・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しが行えたか。	4	・新カリキュラム移行において、各留年者については読み替え表を基に対応した。	・新カリキュラムに移行して本年度で4年がたったので、振り返りを実施し、また、指定規則の変更などの情報も加え、新たなカリキュラムに向けての準備を開始する。
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・シラバスに記載・学生へ周知している。	・特になし
・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。	・引き続きの方針で実施する。
・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。 ・教員の外部講習会への参加がみられたか。	4	・平成27年度の学内教員研修会では、IWASAKI WAY(岩崎学園が、人材育成を通じて社会、地域経済に貢献し、学校法人として成長し、発展していくために、全教職員が行動すべき指針)についての勉強会を実施した。内容は、①IWASAKI WAY策定の理由の理解②IWASAKI WAYそのものの理解(コアメッセージ・10のワードの一つの理解)③自部署にとって、どのような意味合いを持つのか考えていく目的④自部署がIWASAKI WAYに基づいて、どうしたら日常の業務を生き生きと行っている状態になるか考えていく事について実施した。 ・授業アンケートは適正に実施され、結果のフィードバックも行われた。 ・教員間の授業参観は実施できなかった。 ・教員の外部講習に関しては、ほとんどの教員が参加し、例年より積極性が見られた。	・アクティブラーニング、ICTを取り入れるため、研修会や展示会へ参加し、教員間で情報共有を図る。 ・授業アンケートの活用方法について、ヒアリングを検討する。 ・教育関係各種講習会への参加計画を積極的に勧める。
・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・両学科ともH27年度の学会や各種研修会等へは非常に積極的な参加が見られた。PT学科は12の学会、17の研修会、3のフォーラムや展示会にのべ58名の参加があり、OT学科では、3の学会、10の研修会(うち7はMTDLP関連研修会)、1の展示会にのべ29名の参加があった。	・引き続き、研修会の参加や学会発表を促し、必要に応じて報告会を実施する。

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成27年度自己評価表

	・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	3	・年度替わりに次年度の「教務のしおり」を郵送し、確認をお願いしている。また、個々の教員が自分の教科の関連や担任として、非常勤講師との情報交換を実施している。	・27年度に引き続き、必要に応じてさらなる情報交換を図る。
	・担任業務サポート業務のマニュアル化において、昨年度作成したマニュアルの検証を行ったか。 ・そのマニュアルに調整を加え次年度の本実施に向けたものが完成したか。	4	・概ね実施された。	・適宜マニュアルの見直しを行い、より良い活動に促す。
臨床実習	・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。	3	・実習依頼、実習施設確保、承諾書の集計と管理、実習施設からの申請書、契約書の管理は滞りなく実施。 ・回答結果に対する公文書の送付についてはトリプルチェックを行い、滞りなく実施。 ・公文書の人数と実際に割り振った人数に変更が生じることがあるため、文書に学生の人数により変動する旨を一文加える。	・回答結果の入力は、昨年同様にトリプルチェックにて実施していく。 ・人数入確認文書に学生の割り振りによる人数が変動する旨を記載する。
	・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	3	・概ね滞りなく実施した。 ・理学療法学科の登録済み施設で名称変更をかけたが受理されず、新規登録施設と判断された。そのため、願末書を作成、提出し、登録した。	・継続
	・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	4	・滞りなく実施した。 ・指導者会議参加率：3年次理学療法学科76.9%・作業療法学科67.4%、4年次理学療法学科70.3%・作業療法学科71.6%	・継続
情報公開	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3	・希望受験者・保護者には、授業を公開している。 ・カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・授業アンケートの結果については、各科目担当者が学生にフィードバックを直接行うのみで、まだ公開はしていない。	・専門大学化の情報も取り入れ、授業アンケート結果及び対応などの公開に関しては継続し検討する。

4. 教育成果

評価項目		H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
資格	・学生全員に障害者スポーツ指導員が認定されたか。	4	・H27年スポーツ指導者資格取得認定校の手続きを実施した。 ・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続きを実施した。 ・1年生全員の障害者スポーツボランティア体験のサポートを実施した。 ・教科担当とFD業務担当との業務分担を明確にし、各業務分担に沿って実施した。	・H28年スポーツ指導者資格取得認定校の手続き ・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続き ・1年生全員の障害者スポーツボランティア体験のサポート
卒業研究	・卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。 ・卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。	4	・卒業研究までに研究形式を経験していない新カリキュラム学年のため、研究手法や実施方法についての冊子を事前に配布した。教員による助言は必要ではあったが、滞りなく出来たと思われる。 ・発表会は円滑で、質問も多く出された。	・研究手法の検討、実施等学生の希望や能力に応じた指導を検討する。
国家試験・卒業試験	・国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策(学生オリエンテーション、特別講義など)を図る。	3	・過去5年分の国試問題の解説の見直しを行い、国試問題携帯版の運用を開始した。 ・問題別正答率を付記した問題を非常勤講師に提示した。 ・特別講義等実施した。 ・第51回国家試験結果は、PT:91.4%(新卒:93.5%、既卒:50%)、OT:100%(新卒既卒共に100%)であり、全国平均であるPT:74.1%、OT:87.6%を上回る合格率となった。しかし、PT学科は合格率が過去最低であり、難易度が高まった。	・国家試験の傾向、対象学生の状況など、情報を整理して学生指導に反映される分析を継続していく。 ・国試対策を4年生にのみ実施するのではなく、他の学年も巻き込んで実施していく。 ・本校専用の国試対策用解説を携帯版に移行するに伴い、解説文の様式を変更、過去5年以前の解説に関して追加するか検討する。
	・卒業試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。	4	・試験問題の精度向上のため、試験作成者に昨年度作成問題の正答率提示・難易度配分依頼を行った。また、今年度も卒業試験基準点を事前に決定した。	・試験問題の精度を向上させるため、依頼方法・問題校正作業の体制、合格基準等の検討を継続して行っていく。
	・国家試験実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。	4	・今年度も引き続き業者模試を含め、年間13回の実力試験を実施し、無事終了できた。分野別の正答率(平均点を含め)を提示し、学生個々の苦手分野への指導ツールとして利用できた。	・昨今の国家試験との整合性も含め、試験の見直しを行っていく。
臨床実習	・「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。	4	【理学療法学科】( )昨年度 ・1年見学実習:80名修了(85名修了)。 ・2年次体験実習:87合格名、不可0名、未実施1名(合格82名、不可2名) ・3年次臨床実習:72合格名、不可0名(合格79名、不可1名) ・4年次臨床実習:81合格名、不可0名(合格72名、不可2名) 【作業療法学科】( )昨年度 ・1年見学実習:38名修了。(41名) ・2年基礎実習:介助技法の習得は、授業・実技を学内で実施。介護老人保健施設等での1週間の実習も42名修了。(45名) ・3年次臨床実習:不合格未実施2名。細項目にD評価のついた学生10名を対象に、担当教員をつけ個別指導を実施。追加・継続実習を8名(4名)実施し、全員合格。 ・4年次臨床実習:合格34名(追加継続実習者4名含む)(36名)、不合格者3名(2名)。	【理学療法学科】 ・「実習の手引」の指導報告書の改訂が4年次まで完了し今年度から運用開始となる。訪問時および実習終了後にアンケートにてその使用状況、効果について検討する。 【作業療法学科】 ・生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進協力校として申請した。その基準を満たすように本年度は「実習の手引」をMTDLPで臨床実習が行えるように改変した。また基準指標として、平成28年度の臨床実習施設の30%以上で、学生がMTDLPを活用できるように臨床実習指導者に働きかけている。
	・臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。	4	・終了後セミナー等で実習で得た知識、経験を共有した。 ・実習で明らかになった課題等を個別面談で振り返りを行った。	・必要に応じて教員との面談を実施する。
留年・退学者防止	・強化組対策としての学習法の習得が再試験科目の減少につながったか。 ・成績不良による留年・退学者数の減少ができたか。	4	【理学療法学科】 ・1年生(18期生)の再試の平均数は1.39と昨年度(17期生)1.24とわずかに増加しているものの、留年者数は1年生(18期生)3名と昨年度(17期生)と同数を維持した。 ・2年生(17期生)の再試の平均数は1.17と昨年度(16期生)0.97よりもわずかに増加したが、留年者数は2年生(17期生)1名と昨年度(16期生)8名から大幅に減少した。 ・3年生に関しては総合演習による1名と進路変更検討による休学者が1名いるが、再試数は0.27と昨年の0.50とほぼ半減した。 【作業療法学科】 ・強化組の前期1年次の対象学生は6名中1名休学、再試科目数は3.6であり、不合格2名であった。前半期分とのクラス総合平均と強化組の平均の乖離は、前期2年次は+1.86点、3年次は+0.58点、後期1年次は+1.78点、2年次は+3.55と前後期共に強化組の平均値がプラスに生じる結果となり、平均との乖離が少なくなった。	【理学療法学科】 ・学力低下者に対する強化組対策の継続と、留年者が少なかった今年度3年生(17期)については経過を追いながら強化を行う必要がある。 【作業療法学科】 ・強化組対策または早期の国家試験対策(土曜教室)を本年度も実施する。
	・退学率の目標を設定しているか。またその成果は十分か。 ・退学率の低減策が教職員に共有されているか。 ・留年・退学結果について検証・報告を行ったか。	4	・平成27年度は、留年率PT2.65%、OT2.92%・退学率はPT3.83%、OT3.51%であり、目標とした4%以内に留まった。	・退学率・留年率を4%以内を継続する。

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成27年度自己評価表

卒業生	・卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。	3	・各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校説明会において紹介した。 ・卒業生に関する職場におけるアンケート調査を実施、その結果の振り返り実施した。	・分析結果に対する対応の授業等への落とし込みを検討する。
-----	------------------------	---	--	------------------------------

5. 学生支援

評価項目	H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
社会性	4	・年度初めは、新入生に社会性や公共性に欠ける言動の学生が散見されるため、基本的な生活習慣と社会性について指導した。また、実技授業等においても随時社会人・医療人としての資質の育成・向上に向けて指導を行った。	・基本的な生活習慣と社会性については継続した指導を行う ・マニュアル的な獲得にならざるを得ない学生も在籍するため、より個別性を重視した指導を行う
行事	4	・学生がより主体・主導的に動けるよう支援したが、準備(企画書の提出遅れ)や片付け(後夜祭前に終了不十分)で不備が見られた。また、教員主催で地域作業所の出店は昨年度に引き続き企画し、地域・障がいをもった方との触れ合いを経験した。 ・学園祭時間内の定時清掃を実施し、清潔に保てた。 ・参加率はどのクラスも90%以上であった。	・学園祭での地域作業所の出店は次年度も継続して行い、障がい者との触れ合いの機会を増やす。 ・学生が主体的に楽しめる学園祭を支援すると共に、基本的に遵守しなければならない事項等の徹底を図る。
	4	・各行事は少数担当制とし、責任の所在を明確にした。それにより各行事ともスムーズに滞りなく実施できた。 ・業務全体の流れを一覧にし、年間を通して見えるようにした。	・担当者の入れ替えがあるため、滞りなく進められるようこれまで以上に連携を強化する。 ・入学・進級式の学校負担が増加傾向にあるため、担当者の増員を検討する。
個別指導	4	・定期的な面談に加え、必要に応じては随時面談を実施し、必要に応じてスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。 ・週1回学科会議にて定期的に学生に関する情報交換を行い情報を共有した。	・特になし
	4	・学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。	・特になし
	4	・担任、国試担当教員、就職指導職員が対応にあたった。 ・本年度から合同就職説明会を実施した。	・特になし
健康管理・防犯	4	・学生1回実施(平成27年度は4/3実施)	・年1回実施(平成28年度は3/31実施)
	4	・4/20薬物乱用防止セミナー実施	・特になし(平成28年度は4月18日実施)
就職支援	3	・年内内定率 (PT:64.0%、OT:66.7%、全体:64.8%)目標達成  ・年度内内定率 (PT:98.6%、OT:97.1%、全体:98.1%) 各学科1名ずつ現段階で未内定となっているものの概ね目標達成といえる。 初めて実施した合同就職説明会が学生の就職活動への意識を高めるうえでも効果があったと言える。	・年内内定率60%、年度内内定率100%の達成に向け、教員と就職指導担当との連携をより高め、国試対策の進捗が順調な学生から早期内定を促していく。 ・合同就職説明会の実施は検討中
災害対策	3	・戸塚消防署の協力にて避難訓練ならびに教職員に対する通報訓練実施。 ・安全確認メーリングリストを整備。 ・災害時用食料、防寒具を備蓄。 ・災害対策マニュアルが本校の実態に即しているかについては引き続き精査が必要。 ・「東戸塚駅周辺混乱防止対策連絡協議会」設置にかかわる連絡会に参加。 ・通学時・学内外の実習における賠償責任保険に加入している。	・災害対応マニュアルは継続して関連部署と検討中である。
経済援助・活動援助	4	・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。 ・学費分割納入を制度として実施。	・特になし
	4	・保護者への情報提供は行われているか。	・特になし
	4	・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。  ・10/26学園祭同時日に横リハ同窓会「たんぼぼ」主催公開講座実施。 「臨床現場でのリスク管理について～治療・再発予防の観点から～」同日総会実施 ・タンポポニュース配信(9/30)	・特になし
	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・バトミントン・テニス・チアリーディング、剣道のサークル活動を顧問、補助金で支援している。サークルで活用するロッカーも必要に応じて割り当てて使用できるようにしている。	・特になし

6. 教育環境

評価項目	H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・特になし
・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・特になし

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成27年度自己評価表

教室	校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	・8F講堂OA機器経年劣化に伴い更新実施。 ・8F折り畳み式治療ベッド導入 ・8F講堂机・椅子刷新 ・各階手洗いの刷新	・校内無線LAN刷新 ・空調設備刷新
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生ノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・デジタル国家試験教材(LASQ)の更新を行った。 ・スマートフォンを利用した国家試験対策教材を導入	・特になし
図書	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	4	・教職員より蔵書希望のアンケートを実施。蔵書の増加発注を行った。平成28年5月に納入予定である。	・図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行い、蔵書利用者の増加を図る。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認の方法について検討を行なう。 ・製本時期について検討する
	・WEB利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	3	・WEB検索システムを導入した。データベース(文献情報)を検索システムにて検索できるようになり、学生が文献を探しやすい環境を整えた。 ・メディカルオンラインの利用については、適正利用された。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。
設備・備品	・最新機能を備えた機器、実習室などは整備されているか。	4	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした際、各実習室の機器、備品の整備を実施した。	・特になし
	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・前後期ごとに教務室内、倉庫内(2階、3階)を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った	・備品の不足、破損に迅速に対応する。

7. 学生募集

評価項目	H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	4	・定員は充足した。	・高校生の受験動向の変化への対応した入試制度や募集プログラムの立案・実施 ・新設大学設立を受けた組織的・計画的な募集プログラムの立案・実施。 ・学力・向上心ともに高い学生の受け入れを目指す。
・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・特になし
・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができているか。	4	・入試事務局が対応。 フリーアクセス0800-800-4508 infoyrc@iwasaki.ac.jp 希望に応じて個別相談実施。	ホームページをリニューアルし、よりスムーズな情報提供を行うため、スマートフォンに対応させる。
・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・「学校説明会」年間10回開催。 学校紹介・各学科紹介・教員紹介・職業講話・入学説明・校舎案内を実施。 ・「進学説明会」年間2回開催。 入試面接対策講話・入試情報・分析、個別相談を実施。	・特になし
・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・「ビギナーズリハビリ体験ゼミ」年間4回開催。 ・体験ゼミ、また参加者に対し病院見学を実施した。	・特になし
・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。平成28年度生は辞退者2名(返還は5月に完了)	・特になし
・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・入学ガイダンス(4/2・3)、オリエンテーションを実施。 学生生活、授業内容、学習方法、PC操作などを指導。	・特になし

8. 社会貢献

評価項目	H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・高校生向け講座:「仕事のまなび場」(夏休み4講座)・「総専協夏季公開講座」(夏休み4講座・秋1講座)小中学生向け講座:「小中学生のためのチャレンジスクール」(夏休み1講座、秋冬2講座)その他、中学校・高校より依頼を受けて、職業講話などを行っている。	・特になし
・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・学外者と学生との事故も想定し、安全確保を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出している。 ・地域の老人クラブイベントに施設を提供している。	・特になし
・ボランティア、募金などの社会活動に参加しているか。	4	・毎年12月にチャリティバザーを開催し、売上金を各社会福祉団体等に寄付している。	H28年度より地域貢献の方法について再検討する予定
・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・学園祭時等に地域住民も参加できる公開講座を行っている。 ・地域シニア層への講座(3回)行った。	・特になし

9. 法令等の遵守

評価項目	H27評価	H27達成状況	H28に取り組むべき課題等
・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・所管の神奈川県へ学則変更等届出実施、現況調査(学生数・教職員数・卒業状況等)実施した。	・特に課題はない
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化。「学生募集要項」記載。	・作業中の書類等の管理に注意する
・自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、保護者アンケート、教職員の自己評価等)となっていた。平成24年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。	・PDCAサイクルの徹底に努める
・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録されているか。	3	・WFOTの認定は2012年度から2016年度まで登録更新済 ・職業実践専門課程の認定を受け、文科省にその第三者評価が設置され、検討会議委員に本校も参加した。	・本年度、リハビリテーション教育評価機構及びWFOTの第3者評価受審予定
・自己評価結果を公開しているか。	4	・公開中。	・特に問題はない